鉾ヶ岳登山感想文

昨日のテレビは九州地方が梅雨入れした模様であると報じていた。北陸地方も雨模様になると覚悟していた天気も、曇り空で当日の朝を迎えた。起床して先ず窓を開け、西の空を見た。平日と変わらない空模様である。よし、「今日はいけるぞ」と準備に力が入る。

薬勝寺駐車場を 2 台に分乗し出発した。Mさんのハズもニューフェースとして参加され、総勢 9 名(男 6 名、女 3 名)である。

立山連峰はくっきりと見え、最高の登山日和となり車中はルンルン気分である。ところが、県境のトンネルをドンドン抜けて行くごとに雲行きはおかしくなり、越中境パーキングエリアに小休憩で立ち寄った頃は、辺りの山々は勿論のこと、日本海も見えなくなるくらい濃いガスに包まれはじめた。天候が富山県側と新潟県側とではこれほど違うものかと少し戸惑った。かれこれしながら登山口のある島道鉱泉(一軒宿)に着いた頃にはガスも晴れ、気持良く準備体操で体を解し登山を開始した。登山資料には標高差 1100m をいっきに登ると書いてあるとおり、登山開始から思った以上の登りの連続である。登山道にはシラネアオイ(白根葵)、サンカヨウ(山荷葉)など珍しい草花が登山道の直ぐ傍で咲いており、その美しさが急登の緊張感を解してくれる。数多くの登山道の中でもこんなにシラネアオイ、サンカヨウの群生に出会ったのははじめてあり、大変感激した。

金冠山頂(1140m)登り手前と金冠山からの鉾ガ岳への下りには鎖とロープが設置され、スリル満点であると同時に、一時の心の緩みも許されない緊張の場所でした。大沢岳から振り返って眺めた金冠山の独立峰の岩峰はその威容に驚嘆した。

鉾ガ岳頂上(1316m)からは真向かいに焼山、その左に火打山、さらに左側に妙高山など見えた。頂上には意外と虫がおり、昼食もほどほどにして下山を開始した。下山道の中間地点辺りから雨が降りはじめ、島道鉱泉の登山口まで雨は止まなかった。汗でびしょびしょのまま島道鉱泉の玄関口(車のすぐそば)で雨具などを脱させていただき入浴した。鉱泉水は胃腸病に効用があるそうで何杯も飲みほぐした。

築 80 年のひなびた鉱泉で、入浴後囲炉裏のある居間で女将さん手作りのウド、フキノトウの煮物をご馳走になり、鉾ガ岳の出水湯と抹茶でK.Hさんのお点前も加わり疲れを癒した。久々に山水の庭を眺めながら抹茶一服を戴いているゆったりした気分に誘われ、登山の疲れが吹っ飛んだ。梨の木板張りの玄関口で見送ってくれた女将さんの優しい仕草に築 80 年を受け継いできた何かを感じたのは私だけだっただろうか。再会を祈りたいものである。

平成 16 年 5 月 30 日